

みんなげんき

令和5年1月31日

寒さ対策と感染症対策をしっかりと！

寒い日が続いています。1月下旬から2月にかけて、1年の間で最も寒くなるといわれています。寒さがきびしくなればそれだけ体調をくずしやすくなります。寒い冬もあたたかくすごせる服装を心がけてください。



さむい冬もあたたかく過ごせる服装の工夫

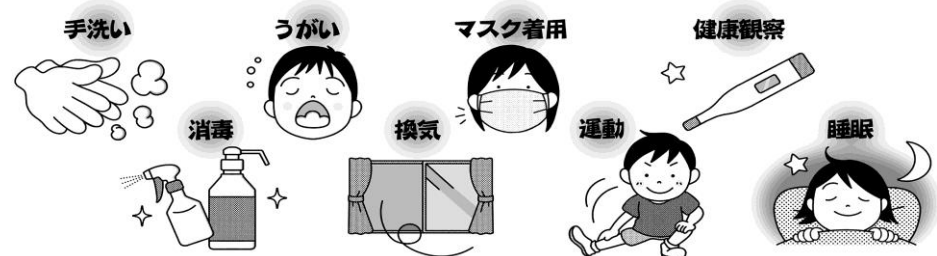


= インフルエンザにも気を付けて =

さらに、気温が低い状態は、感染症の原因であるウイルスが大好きな環境です。毎日の手洗い・うがいやかん気など、感染症予防も集中的に取り組んでいく必要があります。

また、今年の冬は、インフルエンザにかかる人が出ています。京丹後市内でもインフルエンザで学校を欠席する人が増えている状況です。新型コロナウイルス感染症はもちろん、インフルエンザやかぜにかからないように、感染予防をしっかり行いましょう。

コロナもインフルもカゼも…予防方法は同じです



おうちの方へ

* インフルエンザと診断されたら…

感染防止のため学校保健安全法により出席停止となります。出席停止の期間は、

発症後 5日間を 経過し、かつ解熱後 2日間を経過するまで

インフルエンザと診断されましたら、速やかに学校まで連絡をお願いします。

心・体・命の学習をしています

かけがえのない命を大切に、自分らしく生きていくための学習



＜心・体・命の学習－めざす児童像＞

- 自分の命(体・心)を大切にする子
- 他の人の命(体・心)も大切にする子
- お互いを大切にする関係を作っていく子

子どもたちと接していると、命を軽んじる言動ややられてもすぐに生き返るようなゲームに夢中になるなど、命(生と死)をどう受け止めているのか不安に感じることがあります。また、性に関する興味本位な情報が、子ども達のすぐ手の届くところにあふれている状況でもあります。

このような環境の中で成長していく子どもたちだからこそ、自分や他人の体、命の大切さや尊さを真剣に考える学習が必要だと思えます。心・体・命の学習を通じて、今、生きていることのすばらしさを感じ、自分の命や人の命を大切に生きていこうという気持ちを育てていきたいと思えます。

学校では、心・体・命の学習のめざす児童像のもと、裏面のように各学年の発達段階に応じたカリキュラムに沿って、各教科とも関連付けながら指導を進めています。授業の様子については、保健だよりや学級通信等でお知らせします。

この機会にご家庭でも、命の大切さや思いやりの心など、おいに語ってあげてください。また、心・体・命の学習について、ご意見等がありましたらお聞かせください。

おうちの方へ 裏面もご覧ください。

峰山学園 心・体・命の学習（性に関する教育）

＜目標＞ 性に関する教育を生命の尊厳や人権尊重を基盤とした人間教育ととらえ、生と性について主体的に考える態度を養う。

＜育てたい力＞

- ①自分の命や体のことがわかる。
- ②自分の命の成り立ちと心身の成長についてわかる。
- ③思春期における体と心の変化についてわかる。
自己の性を肯定的にとらえることができ、異性の性も尊重できる。
性の多様性、個性を尊重できる。
- ④社会の性の問題に気づき、人間らしく生きることが考えられる。



＜学年別指導目標＞

学年	指導目標	指導内容
1年	○体の名前や働きについて知り、自分の体を大切（清潔）にすることの大切さを知る。 ○おへその働きを知ることにより、母親や家族の愛情によって大切に育てられたことに気づく。	○わたしのからだ ○からだをたいせつに ○おへそってなあに ○ぼく、わたしがうまれた時
2年	○赤ちゃんがどのように育ち生まれてくるかを知り、命を大切にすることを育てる。 ○自分が誕生した時の家族の気持ちや願いを知るとともに、周りの人に支えられて成長していることに気づく。	○大きくなるからだ ○赤ちゃんのたん生 ○これまでのわたし、これからのわたし（生活科との関連）
3年	○体の仕組みと働きを学ぶことにより、男女の体の違いや発育の特徴を知る。 ○命の始まりやつながりを知り、一人ひとりの命の大切さを理解する。 ○自分や友達の良さを知り、認め合い、協力し合う心と態度を養う	○体のしくみと働き ○命の始まりとつながり ○自分の良さ、友達の良さ ○たすけあう心
4年	○男女の体の違いと成長の違いを知り、自分たちの体の特性を理解する。 ○男女の心や行動の違いに気づき、お互いに協力し合う気持ちを深める。	○育ちゆく体 ○思春期にあられる変化 ○心の変化（保健学習）
5年	○思春期における体と心の変化、生命誕生について科学的に理解する。 ○心と体は深くつながっていることに気づき、心によりよい発達と健康について考える。	○大人に近づく体 ○心の発達 ○脳の働きと心（保健学習）
6年	○生命尊重と生きることのすばらしさへの理解を深めるとともに、自己を見つめ、生き方を考える。 ○社会にみられる性の問題に気づき、望ましい行動選択の態度を養う。	○病気の予防・エイズ（保健学習） ○受けつがれる命 ○よりよく生きる（6年間の総復習） ○多様な性、自分らしく生きる

多様な性の学習 = 「自分らしさ」「その人らしさ」を大切にする学習

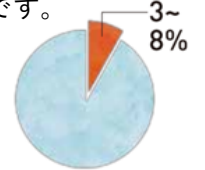
「性」のかたちはいろいろです。顔や声、好きな色や好きなことが人によって違うように、私たちが好きになる性も、表現したい性も人それぞれ違います。違うことはあたりまえのことなのです。どのように生きて、誰を好きになってもいい、女や男だけでなく自分らしく生きることが大切だと思います



身近に傷ついている人が
いるかもしれません

民間の調査等によると、日本における性的少数者（マイノリティ）は、人口の3～8%程度おられるということです。

1クラスに1～3人
くらいの割合です。



多様な性の学習は、多様な性そのものへの理解はもちろん、**すべての子どもが「自分らしさ」「その人らしさ」を大切にできるようになるための学習**です。

性(セクシュアリティ)は多様

世の中ではかつて、「男性」と「女性」の2つの性別しかないと認識されていました。しかし、人間の「性の在り方、性に関わる様々なこと（セクシュアリティ）」は、たった2つのパターンに分けられるほど単純なものではありません。セクシュアリティは非常に複雑かつ、多様なのです。

性のあり方には、身体の性以外にも様々な要素があります。

- 身体の性（からだの性）
- 性自認（こころの性）
- 性的指向（好きになる性）
- 表現したい性（らしさの性）



これらの構成要素が複雑に関わり合って、個人のセクシュアリティは形成されています。セクシュアリティはいわばその人の生き方であり、個人の尊厳に関わる大切な問題です。誰もが自分のセクシュアリティを尊重され、自分らしく生きることができる社会。そんな社会をみんなで作っていくことが求められています。

参考: 京都府 人権冊子「性の多様性と人権」、京都市 「性の多様性ってななに」パンフレット